

●基本情報

事業名(取組名)		小学校運営事業（1学校1田んぼ事業）			評価番号	3-2-7-1
担当課		学校教育課	係	学務係	☐ 予算なし	
基本計画	基本方針	【3】誰もが夢を持ち輝き続けるまちづくり			会計	【01】一般会計
	基本施策	【2】特色ある学校教育の推進			款	【0109】教育費
	施策	【7】学校・家庭・地域の連携・協力の推進			項	【010902】小学校費
	主な取組	①学校と地域の連携による学校支援体制の充実			目	【01090201】学校管理費
					事業	小学校運営事業

●計画 ～PLAN～

根拠法令等	☒ なし ☐ あり	名称				
新規・継続	☐ 新規 ☒ 継続	事業開始年度	平成	28	年度	☐ 事業開始年度不明
事業期間	☐ 期間限定あり（事業終了年度：令和 年度） ☒ 単年度繰り返し ☐ 単年度のみ					
実施手法 (すべてチェック)	☒ 町が直接実施（直営） ☐ 委託（ ☐ 全部委託 ☐ 一部委託 ） ☐ 補助金等 ☒ 町民協働 ☐ 指定管理 ☐ 事務局 ☐ その他（ ）					
実施形態	☒ 町単独 ☐ 国・県補助事業 ☐ 国・県補助事業+町事業(上乗せ) ☐ その他（ ）					
事業概要	各小学校に1箇所ずつ田んぼを借り、児童に田植えから収穫、試食までの農業体験の機会を提供し、児童自らが田植えから収穫までの農業体験をすることで、食の大切さや町の自然を体感し、感受性豊かな心を育成します。また、地域の田・畑を利用した実習授業を通して、農業への理解を深め、生命を大切に作る心や助け合いの心を育成します。					

●実施 ～D0～

事業業績	コロナウイルス感染症の影響により、中止となりました。				
支出	主な歳出の節		令和元年度（実績）	令和2年度（実績）	令和3年度（実績）
	内訳	13 使用料及び賃借料	120,771 円	円	円
			円	円	円
			円	円	円
			円	円	円
			円	円	円
			円	円	円
事業費 計		120,771 円	0 円	0 円	
財源	主な歳入の科目		令和元年度（実績）	令和2年度（実績）	令和3年度（実績）
	内訳	国支出金	円	円	円
		県支出金	円	円	円
		受益者負担金	円	円	円
		地方債	円	円	円
		その他	円	円	円
		一般財源	120,771 円	円	円
事業費 計		120,771 円	0 円	0 円	

●評価 ～CHECK～

妥当性	①政策目的との整合性 事業目的が上位政策（主な取組）の達成に貢献していますか。	☒ 貢献している ☐ 見直す余地がある
	理由	地域の方々と学校が連携し、教育課程に位置付けて実施している事業であることから、貢献できていると考えます。
	②町関与の妥当性 町が事業主体として事業を行うことが妥当ですか。	☒ 妥当である ☐ 見直す余地がある
	理由	教育課程に位置付けて学校が実施する事業であるため、町が主体となり事業を行うことが妥当であると考えます。
有効性	③成果の向上余地 事業内容を工夫することにより成果を向上させることができますか。	☐ 余地がない ☒ 見直す余地がある
	理由	小学校の教育課程に組み込むと、天候等に影響を受ける事業であり、実習ができない場合もあることから、⑤の類似事業との統廃合により事業内容を見直す余地があると考えます。
	④廃止・休止の可能性 事業の内容や成果から廃止・休止できますか。	☒ 可能性がある ☐ 可能性がない
	理由	小学校の教育課程に組み込むと、天候等に影響で実習ができない場合の工夫や準備が必要となる事業であるため、可能性があります。
	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 類似事業との統廃合・連携を図ることにより成果が期待できますか。	☒ 可能性がある ☐ 可能性がない ☐ 類似事業はない
	理由	農業政策課においても「親子稲刈り体験」を実施しており、また、生涯学習課では「子ども体験事業の推進」を掲げていることから、事業の統合や連携の可能性がありそうです。
効率性	⑥事業費の削減余地 成果を下げずにコスト削減できますか。	☒ 余地がない ☐ 余地がある
	理由	農家への田畑賃借料等は農地賃借料情報に基づき算出した必要最低限の経費であるため、削減の余地はないと考えます。
公平性	⑦受益者負担の適正化 事業内容から受益者の負担割合は適正ですか。	☐ 適正である ☐ 見直す余地がある
	理由	☒ 受益者負担を求める事業ではない 教育課程に組み入れ、学校と地域の連携によって実施する体験学習であり、児童生徒の個人の所有物としていないため、受益者負担を求める事業ではありません。

●改善 ～ACTION～

今後の方向性	継続 (☐ 現状維持 ☐ 縮小 ☒ 改善 ☐ 拡大) ☐ 休止 ☐ 廃止(終了) ☐ 統廃合 ☐ 連携
	【理由】 小学校の教育課程に組み入れて実施している事業ではありますが、天候等に影響を受ける事業であり、実習ができない場合もあること、また、農業政策課においても「親子稲刈り体験」を実施しており、生涯学習課では「子ども体験事業の推進」を掲げていることから、将来的には見直しが必要と考えています。 しかしながら、実際の水田での田植え・稲刈り体験は児童にとって希少な学習経験となり、各学校の実施計画に基づき実施しているため、当面は、新学習指導要領の食育の推進に位置付け、食育推進活動に必要な学習として、継続していきます。

●基本情報

事業名(取組名)		子ども110番の家事業・防犯ボランティア事業			評価番号	3-2-7-2	
担当課		学校教育課	係	学務係	☒ 予算なし		
基本計画	基本方針	【3】誰もが夢を持ち輝き続けるまちづくり			予算科目	会計	
	基本施策	【2】特色ある学校教育の推進				款	
	施策	【7】学校・家庭・地域の連携・協力の推進				項	
	主な取組	②子どもを地域全体で育む環境の整備				目	
						事業	

●計画 ～PLAN～

根拠法令等	☒ なし ☐ あり		名称			
新規・継続	☐ 新規 ☒ 継続	事業開始年度	年度	☒ 事業開始年度不明		
事業期間	☐ 期間限定あり（事業終了年度：令和 年度） ☒ 単年度繰り返し ☐ 単年度のみ					
実施手法 (すべてチェック)	☒ 町が直接実施（直営） ☐ 委託（ ☐ 全部委託 ☐ 一部委託 ） ☐ 補助金等 ☒ 町民協働 ☐ 指定管理 ☐ 事務局 ☐ その他（ ）					
実施形態	☒ 町単独 ☐ 国・県補助事業 ☐ 国・県補助事業+町事業(上乗せ) ☐ その他（ ）					
事業概要	警察や小中学校，PTA等と連携し，通学路に面した一般家庭や商店等を緊急避難場所として，地域の方のご自宅，商店などに「子ども110番の家」の看板を設置させていただき，地域全体で児童の安全を守ります。また，登下校防犯ボランティアによる見守りのほか，防災無線により地域の方々に見守りを呼びかけ，防犯意識の高揚を図ります。					

●実施 ～D0～

事業業績	地域ぐるみで子どもたちを育てる体制づくりの一環として，「子ども110番の家」の看板の設置や登下校防犯ボランティア，防災無線による下校時の見守りの呼びかけなど，地域ぐるみで子供達を守る体制づくり，地域住民の防犯意識の高揚が図ることができました。 ・「子ども110番の家」看板設置数 238件（前年度232件） ・地域見守りボランティア数 73人（前年度88人）				
支出	主な歳出の節	令和元年度（実績）	令和2年度（実績）	令和3年度（実績）	
	内訳				
	事業費 計				
財源	主な歳入の科目	令和元年度（実績）	令和2年度（実績）	令和3年度（実績）	
	内訳	国支出金			
		県支出金			
		受益者負担金			
		地方債			
		その他			
	一般財源				
事業費 計					

●評価 ～CHECK～

妥当性	①政策目的との整合性 事業目的が上位政策（主な取組）の達成に貢献していますか。	☒ 貢献している ☐ 見直す余地がある 理由 地域の方々にご協力をいただき、地域ぐるみで児童の安全を確保していることから、貢献できていると考えます。
	②町関与の妥当性 町が事業主体として事業を行うことが妥当ですか。	☒ 妥当である ☐ 見直す余地がある 理由 町単独で通学路における児童の安全を確保することは難しく、町が主体となり地域や関係機関と連携し、子供たちの見守り体制を構築しているため、妥当であると考えます。
有効性	③成果の向上余地 事業内容を工夫することにより成果を向上させることができますか。	☒ 余地がない ☐ 見直す余地がある 理由 児童数の減少や地域の高齢化により「子ども１１０番の家」は減少傾向にありますが、児童の安全のため、見守りは重要であることから見直す余地はないと考えます。
	④廃止・休止の可能性 事業の内容や成果から廃止・休止できますか。	☐ 可能性がある ☒ 可能性がない 理由 今後も地域や関係機関と連携して、登下校時の児童の安全を確保する必要があるため、廃止の可能性はありません。
	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 類似事業との統廃合・連携を図ることにより成果が期待できますか。	☐ 可能性がある ☐ 可能性がない ☒ 類似事業はない 理由 類似事業はありません。
効率性	⑥事業費の削減余地 成果を下げずにコスト削減できますか。	☒ 余地がない ☐ 余地がある 理由 「子ども１１０番の家」の看板は、数年に１回まとめて購入しており、また、地域のボランティアの協力により通常の事業費計上がないため、削減の余地はないと考えます。
公平性	⑦受益者負担の適正化 事業内容から受益者の負担割合は適正ですか。	☐ 適正である ☐ 見直す余地がある ☒ 受益者負担を求める事業ではない 理由 予算執行はありません。

●改善 ～ACTION～

今後の方向性	継続 （ ☒ 現状維持 ☐ 縮小 ☐ 改善 ☐ 拡大 ） ☐ 休止 ☐ 廃止（終了） ☐ 統廃合 ☐ 連携
	【理由】 今後も警察や小中学校、PTA等と連携し、通学路に面した一般家庭や商店等を緊急避難場所として、地域の方のご自宅、商店などに「子ども１１０番の家」の看板を設置させていただき、地域全体で児童の安全を守っていきます。地域の方々に見守りの呼びかけをお願いしている防災無線については、令和２年度より各小学校児童にアナウンスをお願いし、子どもたち自ら地域の方々に見守り放送を実施しています。